



大砂土小だより

学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」

～ 認め合い・学び合い・共に育つ ～

<目指す児童像>

豊かなコミュニケーションの下で、

かしこい子(知) 明るい子(徳) たましい子(体)

TEL 663-7005

FAX 663-9886

令和7年1月7日 第9号

大砂土小学校 ホームページは <http://osato-esaitama-city.ed.jp/>

メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

笑う門には福来たる

校長 新堀 栄

新年おめでとうございます。

令和7年の年明けは暖かく、とても穏やかな日々でした。そんな暖かな陽気に背中を押されるように、いよいよ本日、1年の締めくくりである3学期がスタートします。6年生は、中学校生活に夢を馳せながら小学校生活最後の学期を楽しい時間にしてほしいと思いますし、その他の学年は、当該学年のまとめをしっかりと行い、次の学年の準備を進めてほしいと思います。

1月は「睦月（むつき）」とも言い、「親類知人が互いに往来し、仲睦まじく」という語源があるそうです。穏やかな正月に家族・親類が集まり、互いの健康を祝い、今年目標などを立てたご家庭も多いことと思います。

おかげさまで、この冬休みにおいても子ども達は大きな事故やけがもなく過ごすことができました。保護者の皆様や地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、新春は、「福袋」や「福笑い」「福達磨」など、「福」の字を冠する言葉が目につく季節柄でもあります。先人（幸田露伴）の言葉より「幸福三説（惜福、分福、植福）」という、自分を高める為のメッセージを思い起こします。

- 「惜福」とは…福を惜しむこと。与えられた福(しあわせ)に感謝しつつ、幸福をかみしめ、取り尽くしてしまわない、むさぼらないことです。幸福を大切に感謝する工夫をするなど、『惜福の工夫』をしている人や家庭は、不思議に福に出合うこと。
- 「分福」とは…自分の得た福を他人に分け与えること。自分一人の幸福はありえず、周囲を幸福にすることが自らの幸福につながる。人への親切なども同じで、社会や他人に善いことをすれば必ず自分に善いことが戻ってくる。
- 「植福」とは…福を植えること。将来幸せであり続けるよう、幸せの種をまき、正しい努力と精進をし続けること。幸せは過去にまいた種が芽をだし、今の自分をつくっていること。

このように、幸福の原点は、毎日の心構え、努力精進と感謝し続けることだと認識しています。

また、『笑う門には福来たる』という諺（ことわざ）がありますが、「大人になると笑う回数が減る」というCMがありました。子どもは、1日平均400回笑うが、大人になると15回に減る、とも…。自分自身を振り返ってみますと、ここ最近、お腹を抱えて笑うような出来事ってあったかなと思ってしまいます。お腹の底から笑うと、心も体も元気になれる気がします。笑いに関する様々なデータを調べてみました。「声を出してよく笑う」を性別で見ると、男性40%、女性60%で、女性の方がよく笑うことが分かっています。世代別ではどうでしょうか。「よく笑う」は30代が65%、40代が50%、50代が45%です。やはり年齢が若い方がよく笑うようです。

「笑い」による効能は、ストレスを解消し免疫力を高めるとともに、記憶力や判断力、思考力などを向上させることが分かっています。さらに、幸福感をもたらす、やる気やプラス思考を高めること、等々。

「幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せになれる。」という言葉通り、今年1年が皆様にとって、笑いに包まれ、笑顔で終われるような年になりますように。

本年も皆さまのご協力をいただきながら本校教職員一同、心を新たにして教育活動をなお一層推進してまいりたいと決意しております。子ども達の健やかな成長のため、今後とも旧年に変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。